

北九州 GX Day 2026.2.9

第2部 セッション③ <パネルディスカッション>

テーマ：「**GX x 金融 x 企業成長**」

登壇者の紹介



FAIS
(北九州産業学術推進機構)

GX推進機構

FDSF
(科学と金融による
未来創造イニシアティブ)

福岡銀行

Rocky-Ichimaruru

北九州市役所

GX推進部長

理事

代表理事

ソリューション営業部
部長代理

代表

産業経済局長

三戸 俊和

高田 英樹

小野塚 恵美

神園 龍一

市丸 寛展

柴田 泰平

モデレーター

テーマ：「GX x 金融 x 企業成長」

＜本セッションの論点＞



質問受付
(Slido)

- 1) 信金パネルディスカッションを踏まえて。
- 2) GX推進に当たってのコスト高等の課題をどう乗り越えるか？
(制度？ 技術開発？ 意識啓発？.....)
- 3) GX推進に関する国際的な動向について。
(アメリカのパリ協定離脱、ウクライナ情勢を契機としたエネルギー費高騰など)
- 4) 北九州GX推進コンソーシアムの「Stage 2」に向けて。



FDSF

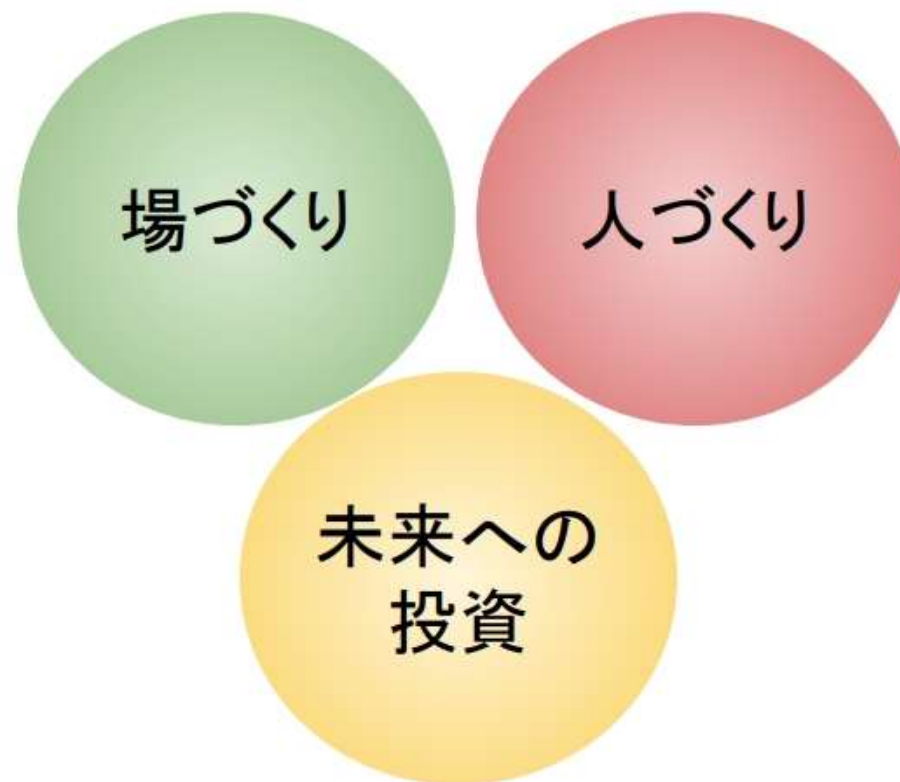
サステナブル金融の発展と共に 社会のアップデートを目指す

一般社団法人 科学と金融による未来創造イニシアティブ (FDSF)

2026年2月

一般社団法人 科学と金融による未来創造イニシアティブ

Future
Design by
Science and
Finance



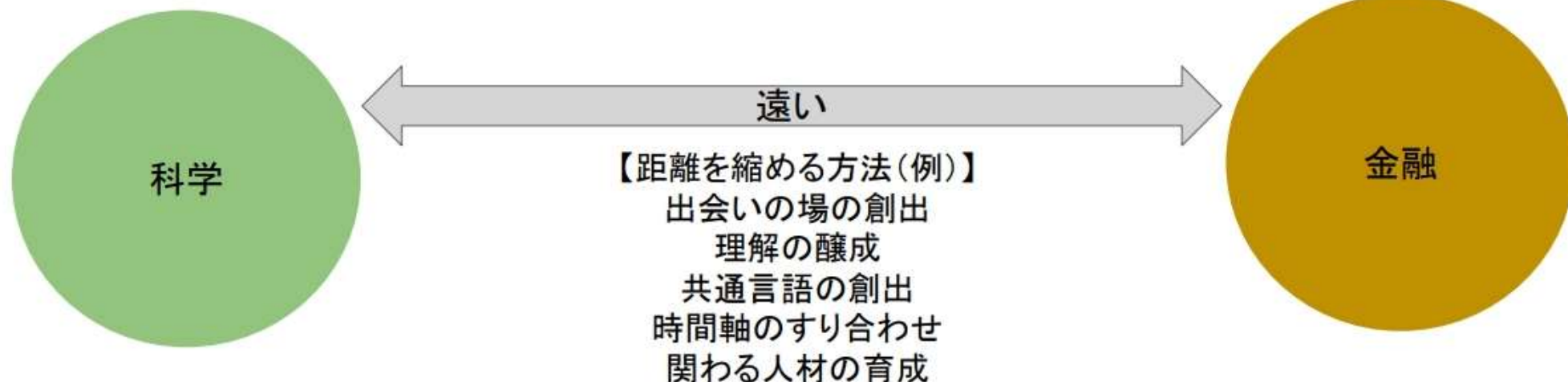
FDSFの課題設定と仮説

【課題】持続可能な社会に向けて更なる科学の発展とその成果の実装による課題解決が金融を伴って早く、多数実現する必要があるが、日本ではそのための資金の好循環が不足している

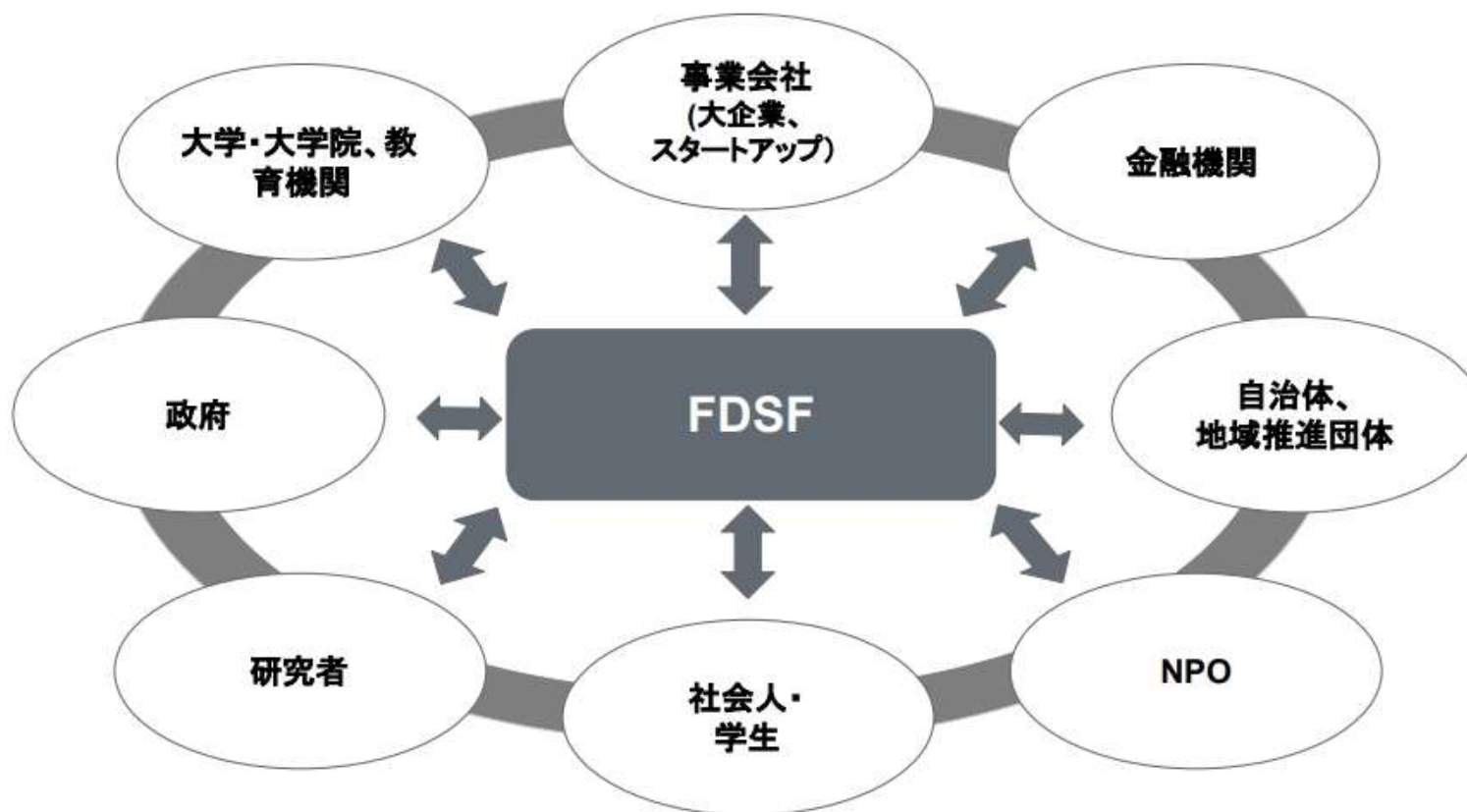
【仮説】その一つの理由として、**科学と金融の距離が遠い**のではないかと

- ・科学とは、様々な事象を目的を持って研究する活動
- ・科学の成果は技術となって社会実装されるものもある
- ・我々を取り巻く社会課題の解決のために、自然科学と人文科学の知見の融合が期待されている

- ・金融とは、金銭の融通の略語:資金がある所から不足しているところへお金を融通すること
- ・科学的発見と技術の社会実装への資金循環を通じて、社会課題解決に貢献することが期待される



科学と金融に関する国内外の関係者を巻き込み、
経済価値と社会価値の創出 にシームレスに取り組み、社会のアップデートを目指す



メンバー紹介：理事・監事



Future Design Initiative by Science and Finance

運用会社



代表理事
小野塚 恵美
Emi Onozuka

エミネットグループ 代表取締役社長CEO
金融庁サステナブルファイナンス有識者会議委員

アカデミア



理事
棚橋 慶太
Keita Tanahashi

広島経済大学経営学部 教授

アセットオーナー



理事
野村 裕之
Hiroyuki Nomura

株式会社かんぽ生命保険 執行役員 兼運用企画部長

VC



理事
北原 宏和
Hirokazu Kitahara

アーキタイプベンチャーズ パートナー

インパクト投資



監事
安間 匡明
Masaaki Amma

PwCサステナビリティ合同会社 執行役員常務
一般財団法人社会変革推進財団エグゼクティブアドバイザー

JPモルガン(1998-2000)、ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント(2000-2020)、カタリスト投資顧問(2020-2022)に勤務。うち20年以上は資産運用に携わり、3つ部門(運用、営業、管理)を全て経験。2012年以降、ESG分野での専門性を培い、機関投資家としてESGリサーチ、投資先上場企業との対話、議決権行使を中心としたステューワードシップ活動を推進。直近ではアクティビストファンドの経営者として、日本の上場企業のガバナンス向上、資本市場の高度化、最終受益者への啓発に注力。金融庁サステナブルファイナンス有識者会議、経産省非財務情報の開示指針研究会に参画。日本を代表する機関投資家団体として世界から認知されるジャパン・ステューワードシップ・イニシアティブ(JSI)で初代運営委員長を務める。東京理科大学大学院経営学研究科技術経営(MOT)修士。

1986年日本興業銀行入行、興銀証券、ドイツ及びロンドン証券現地法人、みずほ証券勤務を経て2006年に三井物産株式会社に入社。オルタナティブ投資商品の企画・運用・販売に従事。同社子会社であるジャパンオルタナティブ証券(現三井物産オルタナティブインベストメント)や物流施設に投資するJ-REITである日本ロジスティクスファンド投資法人を運営する三井物産ロジスティクスパートナーズの代表取締役、またかんぽ生命保険に出向し不動産ファンド投資担当部長を経て国内外社債、同ファンド投資及びオルタナティブ投資9兆円弱を担当する運用開発部長を歴任。2021年より広島経済大学経営学部教授。慶應義塾大学経済学部卒業、筑波大学修士(経営学)、青山学院大学博士(プロフェッショナル会計学)。

1989年に第一生命保険相互会社(現 第一生命保険株式会社)入社。第一生命英国現地法人出向、DIAM(現 アセットマネジメントOne)英国現地法人出向、第一生命保険株式会社債券部長を経て、2017年4月に株式会社かんぽ生命保険入社。市場運用部長、運用企画部長を経て、2023年4月より現職。生保・アセットマネジメント会社にて長きに渡りファンドマネジャー業務に携わり、現在はいかんぽ生命の資産運用の深化・高度化を進めるとともに、幅広い資産を長期的に運用するユニバーサルオーナーとして積極的にESG投資、インパクト投資を推進。国内外の各種フォーラム・カンファレンスに登壇。1989年3月慶應義塾大学経済学部卒業。現在、JPインベストメント株式会社取締役、三井物産かんぽアセットマネジメント株式会社 取締役。

総務省にて地域活性化、Boston Consulting Groupにて情報通信、金融、製造などの幅広い業種での中期経営計画策定、新規事業開発プロジェクト経験を経て、Archetype Venturesに参画。

クライメートテック、サーキュラーエコノミーをはじめとするサステナビリティ領域のスタートアップ投資に注力。

東京大学法学部、Carnegie Mellon University Heinz College of Public Management, University of Southern California Gould School of Law卒業。

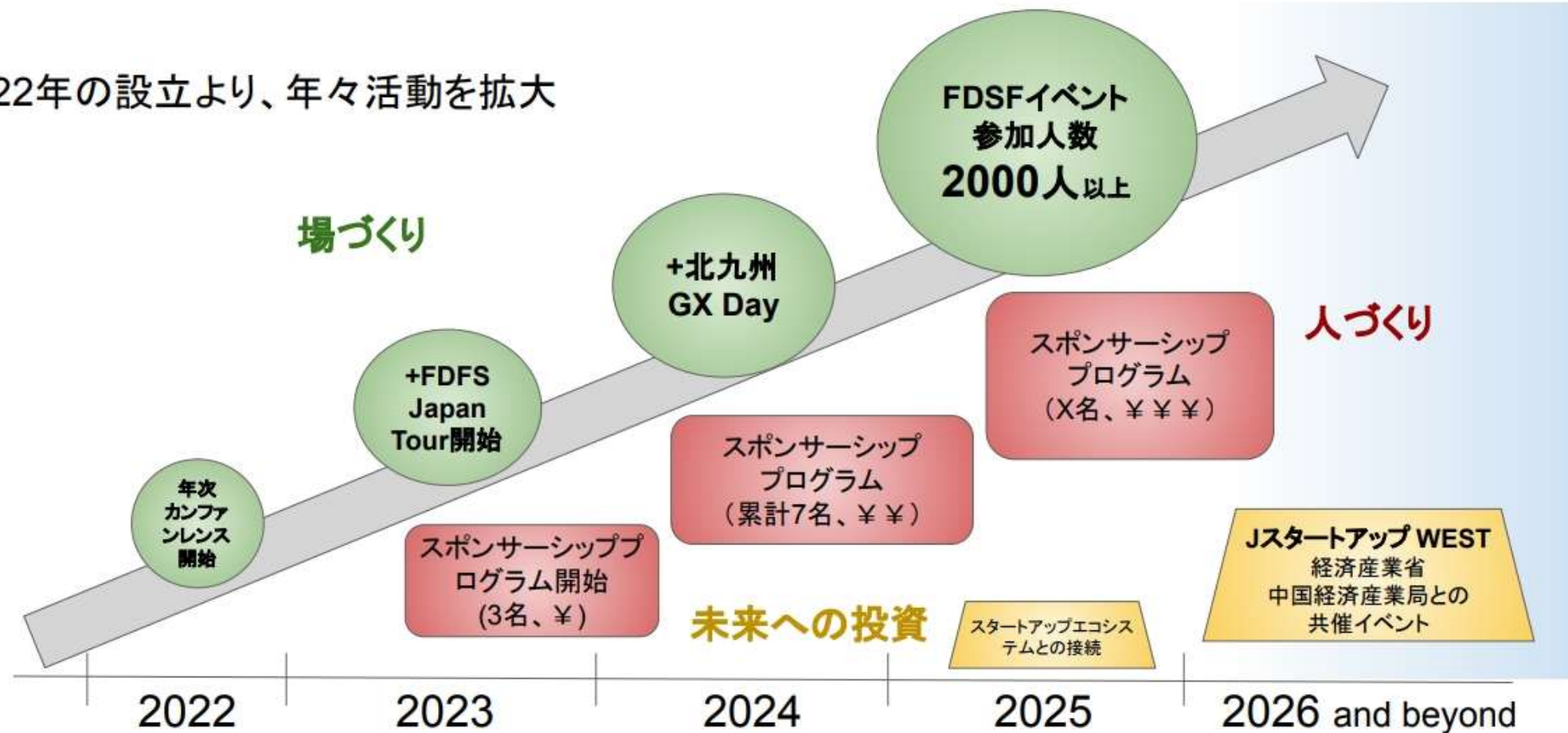
1982年日本輸出入銀行(現韓国国際協力銀行)入行。世界銀行日本理事室出向、開発金融研究所副所長。大阪支店副支店長、業務企画室長。経営企画部長、執行役員企画管理部門長などをを経て取締役(2017年退任)。大和証券顧問を経て、現在、PwCサステナビリティ合同会社執行役員、経済同友会会員、一橋大学公共政策大学院客員教授、福井県立大学客員教授、東京大学工学系研究科非常勤講師。京都大学経済学部卒業、英国LSE(ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス)大学院 Diploma(経済学)修了、東京大学博士(工学)。

FDSFの活動の広がり



Future
Design Initiative by
Science and
Finance

2022年の設立より、年々活動を拡大



活動実績 場づくり事業
FDSF Japan Tour in 北九州(2024年11月26日)



Future
Design Initiative by
Science and
Finance



↑GX推進機構によるプレゼンテーション

→北九州武内市長のプレゼンテーション



Sustainable Finance Human Capital (SFHC)の3つの柱

SFHC情報ライブラリ

グローバルに存在する**サステナブルファイナンス、サステナブル経営**に関するアカデミックプログラム(大学・大学院コース、ディプロマコース、エグゼクティブコース、資格試験等)をウェブサイトにて紹介

体験談Blog

プログラム体験者、SFHC育成の関係者による生の声を紹介

**スポンサーシップ
プログラム**

サステナブルファイナンス推進に向けて研鑽を積む、研究に取り組む方々を応援する目的で、研究補助費(奨学金)を提供

- ◆2023年度に正式に事業化
- ◆サステナブルファイナンスと科学の接続の推進に貢献する対象者に研究補助費を支給



*サステナブルファイナンスは経済・環境・社会、地球環境の発展と両立を目指す。両立する社会課題（気候変動対応、エネルギー課題など）の解決に資する
取り組みとして数々の取組が実施されています。

求める人材・適性

- ✓ これからのサステナブルファイナンス推進に貢献する意思・熱意をもっている
- ✓ 科学（アカデミア）と金融の間を繋ぐ人材になることを志向している
- ✓ 受給後も、習得した専門知識・スキルを活かした活動に取り組む意欲がある

サステナブルファイナンス人材
の育成を通してかなえる、
持続可能な社会の実現——

支援内容

研究補助費申請額(上限300万円まで)

【一般枠】

これからのサステナブルファイナンスの推進に貢献する専門人材の育成に資する「学び」を志す者に対し、研究補助費を支給する。

【ダイバーシティ枠】

女性、外国人など多様なバックグラウンドを持つ方（研究補助費の請求方法、支給内容は一般枠と同様）

応募締め切り

2025/12月末

選考結果通知：2025年3月頃
研究補助費の支給：2025年3月末頃（予定）

募集人数

一般枠・ダイバーシティ枠ともに若干名
(高校生、大学生、大学院生や若手研究者、一般企業に勤務する者など)

協賛いただいた資金の一部をサステナブルファイナンス関連人材に研究補助費として提供するプログラムです。

2024年度の支給対象者は、以下4名の方になりました。

支給対象者

九州工業大学 大学院生命体工学研究科

Aryan Rakhejaさん

東京大学 工学系研究科技術経営戦略学専攻

岩田紘宜さん

名古屋大学 大学院環境学研究科地球環境科学専攻

宇藤未那美さん

一橋大学 大学院社会学研究科

佐藤真陽さん

出所：: <https://fdsf.jp/sponsorship> :

【ウェブサイト】

- トップページ <https://fdsf.jp/>
- スポンサーシップ・プログラム(奨学金) <https://fdsf.jp/sponsorship>
- FDSF Conference (2025年度) <https://fdsf.jp/conference/2025>
- FDSF Japan Tour (2024年度) https://fdsf.jp/FDSFJapanTour/kitakyusyu_gx_day

【プレスリリース PR Times】

https://prtimes.jp/main/html/searchrlp/company_id/101016

【YouTube】

https://www.youtube.com/channel/UCSvNSTnDVR_FS46v3vdYqIA/videos

テーマ：「GX x 金融 x 企業成長」

＜本セッションの論点＞



質問受付
(Slido)

- 1) 信金パネルディスカッションを踏まえて。
- 2) GX推進に当たってのコスト高等の課題をどう乗り越えるか？
(制度？ 技術開発？ 意識啓発？.....)
- 3) GX推進に関する国際的な動向について。
(アメリカのパリ協定離脱、ウクライナ情勢を契機としたエネルギー費高騰など)
- 4) 北九州GX推進コンソーシアムの「Stage 2」に向けて。

登壇者の紹介



FAIS
(北九州産業学術推進機構)

GX推進機構

FDSF
(科学と金融による
未来創造イニシアティブ)

福岡銀行

Rocky-Ichimaruru

北九州市役所

GX推進部長

理事

代表理事

ソリューション営業部
部長代理

代表

産業経済局長

三戸 俊和

高田 英樹

小野塚 恵美

神園 龍一

市丸 寛展

柴田 泰平

モデレーター